

4月6日(月)に『途上』第1号を配布してから、1ヶ月が過ぎました。そのお便りを配布したときには、“この今”を予想することはできませんでした。来たいけど来られない。会いたいのに会えない。登校するという当たり前が当たり前ではなくなり、子どもたちの声が聞こえてこない学び舎で過ごすことが、これほどにさみしいものなのかという刹那の中、私たち教師は改めて、学校そのものが子どもたちのために在るのだということをひしひしと感じております。

そういった日々の中で、保護者の皆様には、子どもたちの学びを家庭で支援いただき、誠にありがとうございます。13日からオンライン授業が始まることで、画面を通してではありますが、子どもたちと繋がることができること、嬉しく思います。

第2号では、ようやく全校が集えた始業式での小池副校長先生の講話と、休業中に新たな命が生まれた日のできごとを紹介します。

「新たな出会い」

前期始業式(遠隔) 小池 勲副校長先生の講話より

全校の皆さんおはようございます。久しぶりにお会いしましたね。2月28日に最後の授業があって、その後、臨時休業、春休みになって、1ヶ月以上たちました。その間、皆さんはいろいろな思いをもって、家で過ごしてくれていたと思います。学校に行って、学校で過ごして、家に帰る。このあたりに思っていた毎日が失われました。皆さんはどうやって過ごしていましたか。何か自分なりに考えて工夫したことはありましたか。こういういつもとは違う毎日の中で、学校で学んできたことが生かされていたらいいなど、私は思います。学校がお休みだった時の家での様子について、教室でみんなと語り合ってみてほしいと思います。

新型コロナウイルスは目に見えません。目に見えないので、大丈夫だと思ってしまう人もいるし、わからないと思う人もいるかもしれません。でも、ここは、先生方のいうことをしっかりと聞いて、それにしたがってほしいと思います。電車の中や待っている時はおしゃべりをしないこと、こまめに手を洗うことなど、ひとりひとりの行動をきちんとすることが大切です。家を出てから家に帰るまで、用心して過ごしてください。

さて、今日から令和2年度(2020年度)附属長野小学校の前期が始まります。それぞれ皆さんが1つずつ進級しました。よかったですね。新しい先生もお見えになりました。4年生はクラスも変わりました。この後で、担任の先生も発表しま

す。気持ちを新たにして、新たな出会いの中で、自分の中に今年1年のめあてが浮かんできたのではないのでしょうか。さわやかな風に吹かれながら、新しい自分を発見してほしいと思います。

始業式のあと、一年生が73名入学します。また、附属小学校に転校してきたお友達も来ています。全校443名で附属長野小学校は出発します。一年生や転校してきたお友達のこと、よろしく頼みますね。



それと、今年度から「もう一人」皆さんのお仲間に加えてほしい人がいますので紹介しますね。それは、人間ではなく、お人形さんです。本当は直接会ってほしかったのですが、今はしかたありません。お名前を「シャノン」ちゃんといいます。出身はアメリカ合衆国です。会ってみたいと思った人は、校長室に訪ねてきてください。そして、このシャノンちゃんは、大切なお人形さんで、たくさんの秘密が隠されています。そういったことを学んでみたい、もっと知りたい、遊んでみたい、シャノンちゃんこんなことできたらいいなと思った人やクラスがあったら、それを実現してほしいなと思います。

最後に、副校長先生から、お願いがあります。昨年度、学校でいやな目にあった人はいませんか。友だちからたたかれる、けられる、ひっかかれる、からかわれる、悪口を言われる、かげぐちを言われる、ものをかくされるなどです。こういうことはしない、させない、許さない学校をみんなで作っていきましょう。何か悩み事のある人がいたら、担任の先生や副任の先生、保健の先生、教頭先生や私など誰かに伝えてみてください。先生たちはみんなで皆さんを大切にしていきます。

それでは令和2年度(2020年度)附属長野小学校の前期を始めましょう。
以上でお話を終わりにします。

新たな命から感じる あの時生まれたわたしの命

4月29日(水)。この日は3年1組が飼育するさくらちゃんに、赤ちゃんが誕生した日でした。ひとりで暮らしていたさくらちゃんが、お姉ちゃんと弟、2頭のお母さんとなりました。朝早くから一目見ようと、多くの子どもたちがお父さん、お母さんと一緒に来て、さくらちゃん一家にくぎ付けとなっていました。

さくらちゃんの出産は、前日の夕方から兆しが見え始め、夜遅くまで誕生の瞬間に立ち会おうと、多くのご家族が自然体験園に車を止め、その時を待っていました。ところが、さくらちゃんはなかなか赤ちゃんを産むことはなく、赤ちゃんとの出会いは、翌日（29日）へ持ち越されました。



担任の小田切先生も、「今日は、ない」そう判断し、帰宅しました。さくらちゃんはというと、誰にも見られない時、人の目が気にならない時を待っていたのでしょうか。小田切先生が帰宅して間もなく、赤ちゃんを産みました。

冒頭の様子に戻ります。待望の赤ちゃんに出会えた瞬間、子どもたちも保護者の方も、「かわいい。」「2匹（頭）だよ。」「真っ白だ。」など、様々な声が聞こえてきました。あるお母さんはこんなことを話されました。

昨日（28日）は、なかなか生まれてこなくて…。我が子が生まれた時のこと話したんです。

「あなたが生まれた時もね、こうやって、すごく時間がかかったんだよ。大変だったんだから。」

って、当時のこと、あの子（Mさん）に伝えました。

“さくらちゃんが赤ちゃんを産む”。この出来事を介して、“今”の親子がつながると同時に、今のお母さんとMさんが初めて出会った“あの瞬間”とをつなぐ。なんて、素敵なんだろう。きっとMさんは、お母さんとのつながりに出会い直すと同時に、自分自身の存在の価値を改めて感じる事ができたと思います。

臨時休業が続きます。家族と過ごす時間が、以前と比べて多くなっているかと思えます。お互いがふれ合う中で、親としての存在感を発揮しつつ、我が子が“かけがえのない存在”であることを伝える、よい機会になるかもしれません。

集えないけどつながっている わたしと先生 わたしの学校

この日の夕方には、こんな場面にも出会いました。2年2組の羊の（フワフワ）よつばちゃんの近くで、なわとびを握るAさんがいました。Aさんに思わず声をかけました。

わたし：『なわとび動画』見た？

Aさん：見たよ。

わたし：どうだった？

Aさん：すごかった（即答）。

わたし：何がすごかった？

Aさん：えっとねえ。座光寺先生のがすごかった。

わたし：その跳び方、やってみせて。

Aさん：・・・どんな跳び方か・・・、忘れちゃった！

わたし：そっかあ。じゃあさあ、今跳べるのでいいからやってみせて。



Aさん：(よつばちゃんが小屋の板にもたれかき、見つめる先に合わせるようにして) ケンケン跳びだよ。(と言って、跳び始める)

よつば：じっと見つめる。

私は、何回か跳び続けるAさんを見つめて、きっとAさんは、私に見せているようっていて、一番に見せていたのはよつばちゃんだと気づきました。

学校として初の試み、YouTubeによる動画配信の発起人は、4月より体育専科として勤務する佐々木先生でした。「教頭先生、全校のために何かしたくて、縄跳びカードを作りたいんですけど」の一言から始まったプロジェクト。熱を帯びた佐々木先生からの発信が、常に熱を発する職員全員に響き、『縄跳びカード』が、プラス『縄跳び動画』へと進化しました。そして、小池副校長先生をはじめとする、すべての先生が紹介する跳び方が、『カード』というアナログと『動画』というデジタルが融合する形となって家庭へ届きました。職員からの熱を帯びたメッセージが間違いなく届いたという事実を、443分の1のAさんの姿から知ることができました。

先週は、メールでもお伝えしたとおり、音楽動画『パートナーソングにちょうせんしょう！』も配信しました。既にご覧いただいた方も大勢いるかと思えます。まだの方であれば是非ご覧ください。

<お知らせ>

(1) 臨時休業再々延長について

国、県の情勢にともない、臨時休業が5月末まで延長されましたが、6月からの学校再開に向け、13日(水)からは、以下の通り進めてまいります。詳細は別紙をご参照ください(ホームページからもご覧になれます)。なお、25日(月)以降の予定については、決まりしだいメールにてお知らせします。

<5月13日(水)～22日(金)>

午前：ZOOMを活用した30分程度のオンライン授業(各学級ごと)

午後：教育相談(希望者) 来校もしくは電話・メール

(2) 臨時休業再々延長にともなう給食停止について

5月末まで給食を停止させていただきました。25日以降に登校が再開した場合には、お弁当(水筒も)を持参することになります。ご承知おきください。